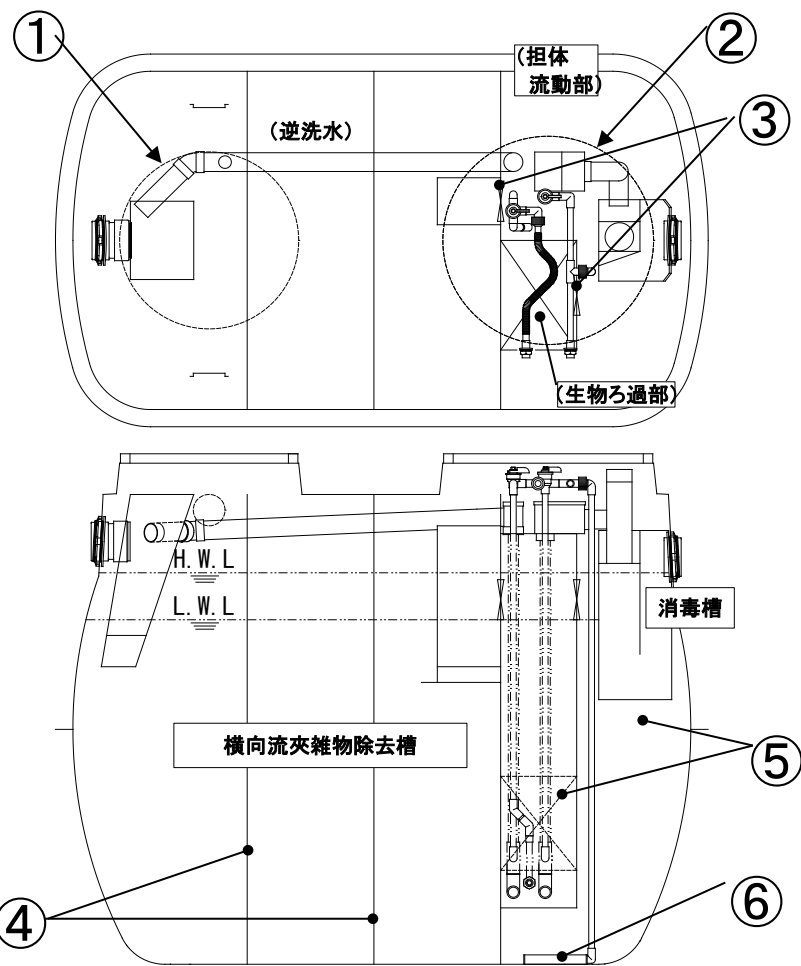
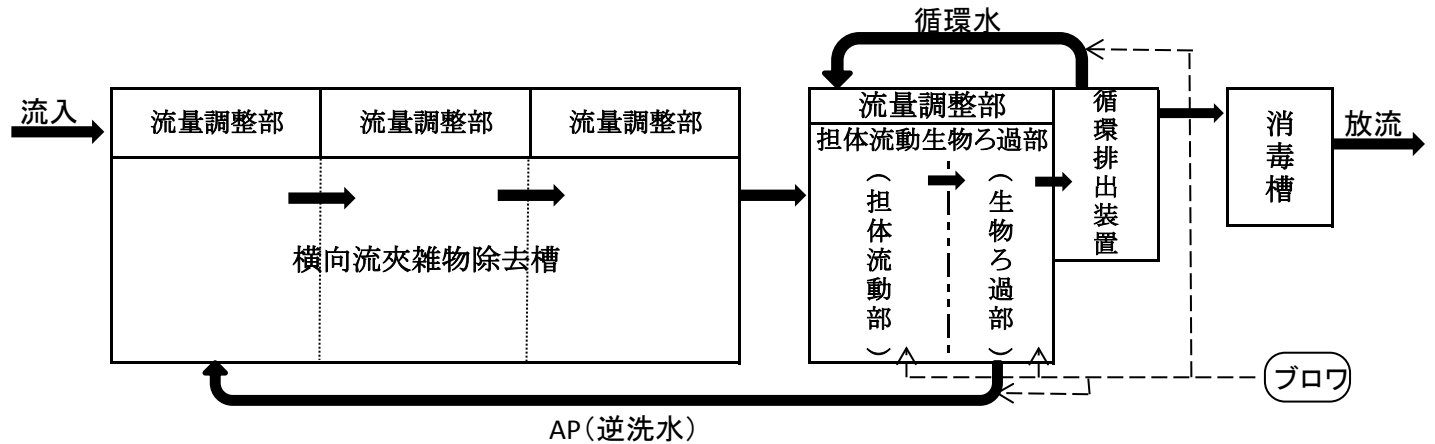


MCP (株)ダイキアクセス OEM: なし 共同開発: なし 処理方式: ピークカット流量調整型夾雑物除去担体流動生物ろ過方 5・7・10人槽	BOD除去型		全浄協登録値		
	BOD	SS	T-N		
	20mg/L以下	—	—		
	性能評定または性能評価値				
	BOD	SS	T-N		
20mg/L以下	15mg/L以下	—			



- ① 横向流夾雑物除去槽
- ② 担体流動生物ろ過槽
- ③ 移流部(ネット)
- ④ 整流板
- ⑤ 担体流動生物ろ過担体
- ⑥ 散気管

有効容量(m ³)		5人槽	7人槽	10人槽
槽名	横向流夾雑物除去槽(L. W. L)	1.361	1.657	2.364
	担体流動部(L. W. L)	0.452	0.555	0.835
	生物ろ過部(L. W. L)	0.086	0.108	0.143
	〈流量調整部〉	0.242	0.299	0.440
	消毒槽		0.023	
合計		2.164	2.642	3.805

流量調整機能	循環装置	循環排出装置 バルブ開度(%)						逆洗装置	逆洗排出移送装置 バルブ開度(%)					
		5人	40	7人	65	10人	77.5		5人	10	7人	15	10人	20
有	有							有						

人槽	ブロウ風量 (ℓ/分)	逆洗風量 (ℓ/分)	逆洗時間 (分)	逆洗時刻		逆洗回数 (回)	逆洗周期
5	60	60	20	3:00	15:00	2	1日
7	80	80					
10	100	100					

[人槽に対する逆洗排出移送水量の設定範囲]

人槽(人)	5	7	10
逆洗排出移送装置 移送水量(ℓ/分)	7.0	10.0	14.0

特 徴

流量調整機能 横向往流夾雑物除去槽、担体流動生物ろ過槽の上部が流量調整部となっており、水位が変動する。流量調整は担体流動生物ろ過槽に設置された循環排出装置で行われる。

横向往流夾雑物除去槽 水面下にφ50mmの複数の穴が開いた整流板が2ヶ所に設置されている。この穴を通して汚水が横向往流し、その過程で汚水中の固形物を分離し、貯留される。流出部の中間水はバブルを介して担体流動生物ろ過槽へ移流する。

担体流動生物ろ過槽 槽内は担体流動部と生物ろ過部に区分され、それぞれにスポンジ様担体(10mm角立方体)が充填されている。担体の流出を防止するため、各移流部にはネットが設置されている。担体流動部は散気管によりばっ気され、BOD除去が進行する。流出水は水面付近の移流口より生物ろ過部に移流し、生物ろ過部に静置された担体によってSSが捕捉される。ろ過された槽内水は生物ろ過部底部の取水口からエアリフトポンプにより揚水され循環排出装置へ移流する。生物ろ過部の担体は閉塞を防止するためタイマー制御で攪拌混合され剥離汚泥を伴う槽内水が底部よりエアリフトポンプで揚水され、横向往流夾雑物除去槽の流入バブル内へ移送される。(自動逆洗)

循環排出装置 処理水は循環水吐出口から常時担体流動部へ循環される。L.W.L時は循環のみとなり、槽内水位が上昇した際は装置内の放流堰を越流して消毒槽へ移流する。

作 業 時 の ポ イ ン ト

保守点検

- ①横向往流夾雑物除去槽から担体流動部への移流口(ネット)、担体流動部から生物ろ過部への移流口(ネット)を保守点検ごとにブラシ等でこすり、洗浄してください。
- ②横向往流夾雑物除去槽及び担体流動生物ろ過槽に水位差がないか確認してください。
- ③循環排出装置を槽内水位と計量器内水位がほぼ一致するようにエアバルブで調整してください。
- ④循環排出装置のエア調整バルブ開度を上げても揚水量が増えない場合は、生物ろ過槽の閉塞が考えられるので、生物ろ過槽の詰まり除去を行ってください。

清掃

- ①横向往流夾雑物除去槽は全室とも全量引き抜いてください。
- ②清掃時には整流板を必ず水で洗浄し、汚泥や異物等を洗い落としてください。
- ③担体流動生物ろ過槽にバキュームホースを投入しないでください。